

CHOFU 石油ふろがま 型名 CK-136S 工事説明書

機器を据付ける前に必ずこの工事説明書をよくお読みの上、正しく据付けてください。なお、この工事説明書は工事終了後、取扱説明書と共に必ずお客様にお渡しください。

特に注意していただきたいこと

●ここに示した事項は、危害・損害の程度によって次のように分類されます。いずれも安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。

警告
この表示を無視して作業を誤った場合に、作業者またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。

注意
この表示を無視して作業を誤った場合に、作業者またはその作業後の不具合によって使用者が軽傷を負う可能性、または物的損害の発生が想定される内容を示しています。

●絵表示には次のような意味があります。

	一般的な禁止		必ず行うこと
	アースを接続すること		電源プラグを抜くこと

警告

火災予防条例、電気設備に関する技術基準、電気工事や水道工事はそれぞれ指定の工事店に依頼するなど法令の基準を守ってください

据付けや移動は、販売店または据付業者が行ってください

●お客様ご自身で据付けをされ、不備があると火災や感電の原因になります。

屋内排気禁止

●屋内に排気すると排ガスが室内に充満して危険です。必ず屋外に排気してください。

屋内設置禁止 (拡散排気筒使用時)

●拡散排気筒を取付ける場合は必ず屋外に設置してください。また、屋外でも通気の悪い場所には設置しないでください。火災や予想しない事故の原因になります。

煙突は確実に接続

●煙突は確実に接続し、しっかりと固定してください。風・振動・衝撃などではずれたりすると運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。

煙突は当社指定のもの(H型トップ)を必ず使用する

●指定以外のものを使用した場合は、火災の原因になります。

注意

次の場所には据付けない

●火災や予想しない事故の原因になります。

- 水平でない場所、不安定な場所
- 不安定な物を載せた棚などの下
- 可燃性ガスや腐食性ガスの発生する場所、またはたまる場所(マンホールや排水口などに近い場所)
- 燃焼に必要な空気を取り入れる空気取入口のない場所、または換気が行えない場所(屋内設置の場合)
- 付近に燃えやすいものがある場所
- 階段や避難口などの付近で避難の支障となる場所
- 大量の雨水がまとまってかかる場所(雨樋のないひさしや窓用目隠しルーバーなどの下になる場所)
- 標高 1,000m を超える場所
- 湿気の多い場所
- 排水のしにくい場所
- 浴室

換気扇や換気システムの吸込口付近には、機器本体および煙突を設置しない

●排ガスを室内に吸い込み、健康を害するおそれがあります。

作業時は保護具を着用する

●作業時は手袋などの保護具を着用してください。けがの原因になります。

囲い禁止(屋外設置の場合)

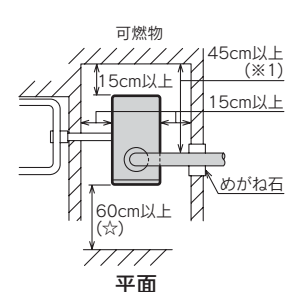
●機器や拡散排気筒を波板などで囲わないでください。不完全燃焼や火災の原因になります。

可燃物との距離を離す

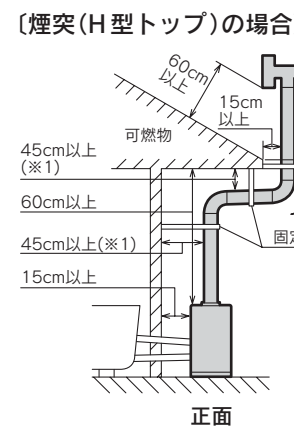
- 拡散排気筒を使用する場合は屋外の開放された場所に設置してください。
- 機器の周囲に可燃物がある場合は、図の離隔距離を守ってください。防熱板、不燃材の場合は離隔距離が緩和されますので、各地域の火災予防条例を参照してください。
- 機器は金属製以外の不燃材(スレートなど)の床の上に据付けるか、または防火上有効な措置を講じた金属製の台の上に据付けてください。
- 据付ける際には配管のためのスペースを考慮に入れてください。

標準据付図例

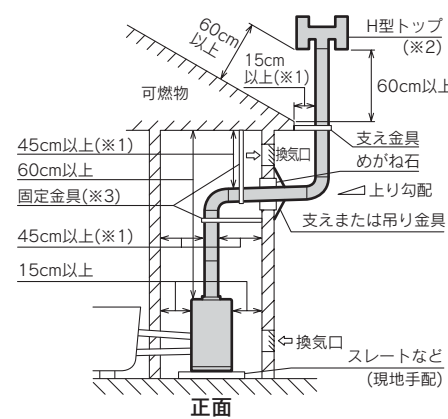
屋内設置の場合



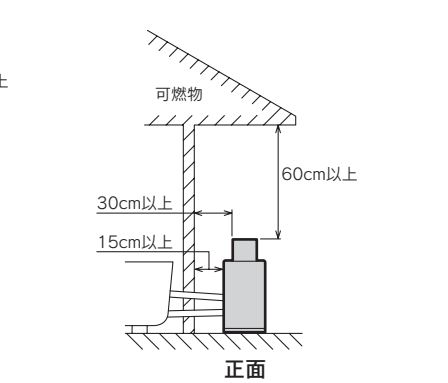
屋外設置の場合



〔煙突(H型トップ)の場合〕



〔拡散排気筒の場合〕



(※1) 煙突は機器から180cm以内では45cm以上、180cmを超える場合は15cm以上離すこと。
 (※2) 煙突の先端から水平距離1m以内に建築物の軒がある場合は、その軒から60cm以上高くすること。煙突の先端から1m以内に建築物の開口部(窓)がないこと。
 (※3) 煙突は固定金具で1.5~2m間隔で固定し、自重を支える部分は支えまたは吊り金具で堅固に支持すること。固定金具を2本以上使って、煙突が抜けたり倒れたりすることのないように固定すること。
 (☆) 印の寸法はサービススペースとして必要な距離です。

特に注意していただきたいこと

注意

家庭用以外の使用禁止

●この機器は家庭用です。家庭用以外に使用すると保証の対象外になります。

ゴム製送油管の使用禁止

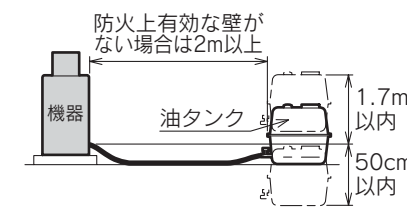
●必ず付属の金属製の送油管(銅管)を使用し、ゴム製送油管は絶対に使用しないでください。高温部に触れて火災の原因になります。

送油管取付け時の確認

●既設の油タンクを使用する場合は、送油管を機器に取付ける前に油タンクからの灯油をバケツなどの容器で受け、油タンク内に水・ゴミ・錆などがいないことを確認してから取付けてください。油タンク内に水・ゴミ・錆などがたまっていると機器が故障の原因になります。

油タンクとの距離を離す

●油タンクは機器より2m以上離して据付けるか、防火上有効な遮へいを設けてください。
 ●油タンクは不燃材でできた水平な基礎の上に据付けてください。



換気口を設置する(屋内設置の場合)

●屋内やボイラ室に設置するときは燃焼に必要な空気を充分確保するため、上下2箇所に換気口を取付けてください。換気口の有効開口面積はそれぞれ200cm²以上です。ガラリを取付けたときは、ガラリの種類に応じて有効開口面積に表の数値を乗じたものを最小面積とします。

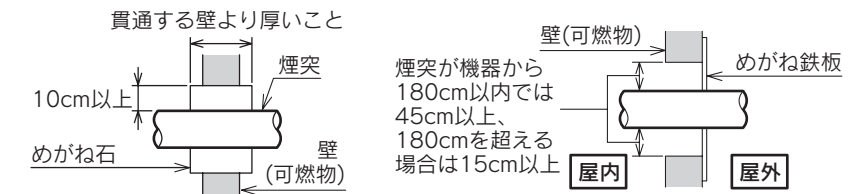
スチールガラリ	2.0	〔例〕スチールガラリを取付けた場合 木製ガラリ 2.5 パンチングパネル 3.4
木製ガラリ	2.5	
パンチングパネル	3.4	

アース工事をすること

●アース工事を確実に行ってください。故障や漏電のときに感電するおそれがあります。

家屋貫通部の注意

- 煙突が可燃性の壁などを貫通する部分は、必ずめがね石かめがね鉄板を使用してください。
- 小屋裏・天井裏などにある部分は、金属以外の不燃材料で防火上有効な被覆を行ってください。
- 可燃性の壁・天井・小屋裏・天井裏などを貫通する部分およびその付近では、煙突を接続しないでください。
- 地域により異なることがありますので、各地域の火災予防条例を参照してください。



煙突の固定

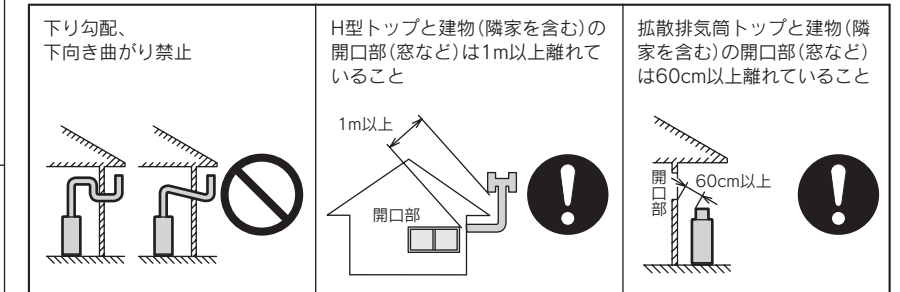
- 煙突は風や振動などで倒れないよう、支え金具や支え線などで固定してください。
- 煙突は固定金具で1.5~2m間隔で固定し、自重を支える部分は支えまたは吊り金具で堅固に支持してください。
- 機器の接続口に煙突を差し込み、ねじ(1本以上)で固定してください。

煙突の交換

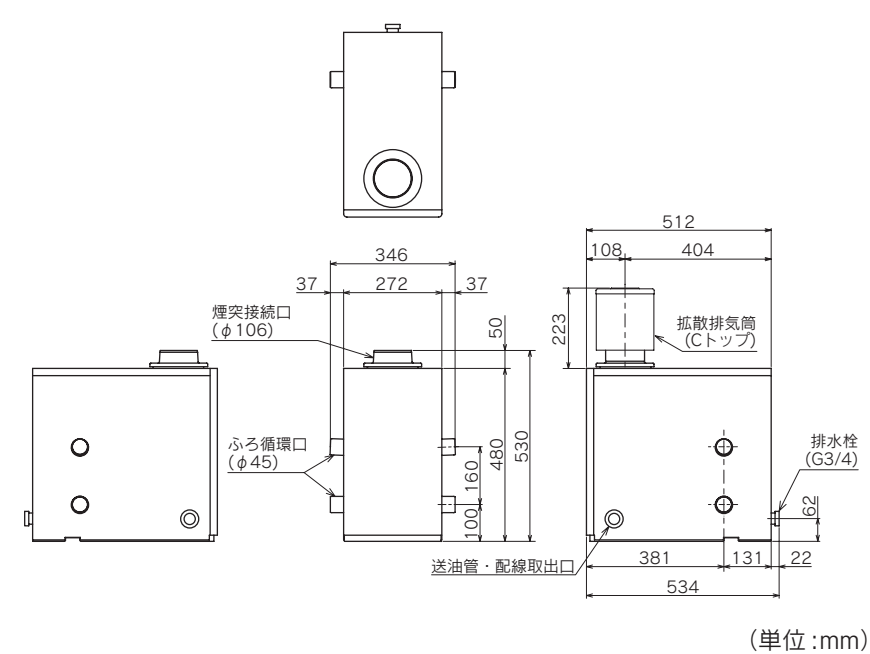
- 機器交換時には煙突・煙突トップ(Hトップ)固定金具も交換してください。
- 異径煙突は使用しないでください。

煙突の点検

- 煙突の取付けが終わりましたら、もう一度点検してください。次のような取付けは危険であったり、不完全燃焼をおこすおそれがありますので、必ず修正してください。



外形寸法図



※ふる循環口、送油管・配線取出口は左右両側にあります。拡散排気筒(Cトップ)をはずすとφ106mmの煙突を取付けることができます。

付属品の確認

●梱包されている付属品に不足がないことを確認してください。

リモコン一式(※)	循環口ゴムキャップ(2個)	ワイヤークランプ(φ50 6個)	ヒニルパイプ	循環口カバー
	本体に貼付	所有者票袋 所有者票 保護シール 特定保守製品説明書	取扱説明書 (保証書付) 工事説明書	

※付属品は「リモコン工事説明書」参照。

別売部品

- リモコン(TS-10)
- ストロングパイプ
- 煙突セット
- リモコンパイプセット(RPS-2)
- 延長用リモコンコード

据 付 け

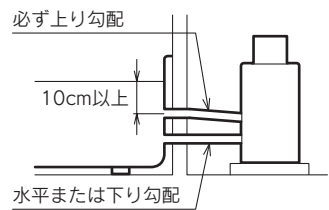
表面の「特に注意していただきたいこと」の項も必ず確認してください。

1 機器の設置

- 機器はできるだけ浴そうの近くに設置し、必ず水平に置かれていることを確認してください。(水準器などで確認してください。)
- 傾いていると対震自動消火装置が誤動作します。
- 機器をコンクリートなどで埋め込まないでください。
- 設置床面は凹地にしないでください。水やゴミがたまって機器の不具合の原因になります。
- 機器が水につかる場所、排水が悪い場所には設置しないでください。

2 据付けの基準寸法

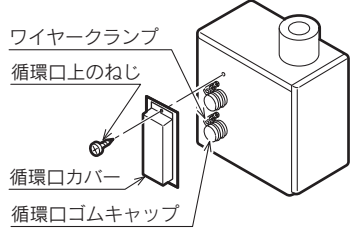
- 機器と浴そうが図のような位置関係になるように据付けてください。



3 循環口カバーの取付け

- この機器にはふろ循環口が左右(各2個)にあります。浴そうに接続しない側の循環口にゴムキャップを取付け、ワイヤークランプで締めつけます。
※右側のふろ循環口を使用する場合は、左側のふろ循環口のゴムフランジを右側に付け替えてください。
- 循環口上のねじをはずします。
- 循環口カバーの内側にあるシール裏紙をはがします。
- 循環口カバーをねじ穴に合わせ、ふろがま本体に押しつけてははずしたねじで固定します。

- 循環口カバーのシール面があたる場所に、ゴミ・水・油などがついていれればきれいにふき取ってください。よくふき取らないと、はがれることがあります。
- 循環口カバーを取付ける前に、ゴムキャップがワイヤークランプでしっかりと締めつけてあるか、必ず確認してください。



4 ふろ配管の接続

- 浴そうからの循環パイプと機器のふろ循環口の間を付属のビニルパイプとワイヤークランプでしっかりと接続してください。
- 浴そうと接続する循環口にゴムフランジが差し込んであることを確認してください。

5 油タンクの設置

- 風通しがよく、できるだけ直射日光があたらない場所に設置してください。
- 油タンクの容量が200L以上の場合は消防署へ「危険物の貯蔵・取扱届」が必要です。ただし、個人の住居に設置するときは不要となる場合があります。詳しくは各地域の火災予防条例を参照してください。(所轄の消防署に確認してください。)
- 油タンクには必ず水抜きバルブを設けてください。

6 送油管の取付け

⚠️ 注意

- 接続部から油漏れがないように注意してください。
- 送油管は金属管(銅管)を使用し、ゴム製送油管は絶対に使用しないでください。高温部に触れて火災の原因になります。

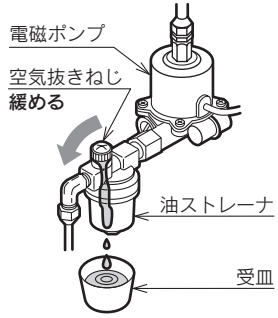
- 送油管が途中で逆U字型になって、空気だまりができないようにしてください。
- 送油管内のゴミなどを取除いてください。
- 送油管接続口に送油管をしっかりと接続してください。
- 図のように油タンクに送油バルブ(油タンク付属)を取付けて、送油管を接続してください。



7 送油経路の空気抜き

- 油ストレーナの下に受皿などを置きます。
- 油タンクの送油バルブを開け、油ストレーナの空気抜きねじを緩めて、灯油が連続して出てきたら空気抜きねじを締めます。
- こぼれた灯油をふきとります。

- 試運転時に油ストレーナの空気抜きを行っても、電磁ポンプ内の空気が抜けるまで振動音が出たり、点火しないで警報になることがあります。故障ではありません。警報になったときはリモコンのタイマーつまみを一度回して再度「停止」に戻してください。



電 気 配 線

⚠️ 警告

- 電源コードの届く範囲にコンセントがないときは、電力会社の指定工事に依頼し、所定の電気配線をしてください。絶対に電源コードを切断して延長しないでください。火災や感電の原因になります。
- 電源コードは束ねたまま使用しないでください。また、余った電源コードやアース線は機器内に入れてください。火災の原因になります。
- 電源コードが熱交換器・バーナーなどの燃焼部・煙突・拡散排気筒に接触しないように配線してください。

使用電源

- 電源は必ずAC100Vを使用してください。絶対に200Vに接続しないでください。機器が破損します。

電圧降下

- 電圧が降下すると故障・誤動作の原因になります。

電源周波数

- この機器は50Hz・60Hzそれぞれ専用です。地域の電源周波数に一致していることを確認してください。

接地(アース)

- アース工事を確実に行ってください。アースが不完全な場合は、感電するおそれがあります。
- バーナーの右側面にアース端子を表示してあります。電気設備に関する技術基準に基づき、D種接地工事を行ってください。(接地抵抗100Ω以下)
- アース線はガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。



拡散排気筒および煙突の取付け

表面の「特に注意していただきたいこと」の項も必ず確認してください。

- この機器には必ず拡散排気筒または煙突を取付けてください。

拡散排気筒(Cトップ)の取付け(屋外設置のみ)

⚠️ 注意

- 排ガスの吹き出し方向は拡散排気筒の取付けにより変更されますので、機器周辺の壁などの状況に応じて安全な方向に取付けてください。

- 機器の煙突接続口に拡散排気筒(Cトップ)を差し込みます。拡散排気筒(Cトップ)

煙突の取付け

■煙突の径

- 煙突の径はφ106mmです。途中で細くしないでください。

■トップの形状

- トップはH型トップを使用してください。

■煙突の高さ

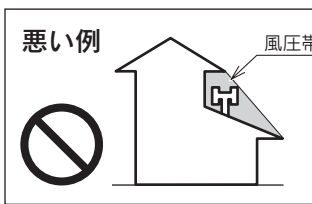
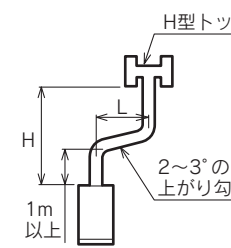
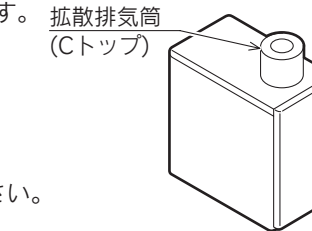
- 煙突の高さは次の式から基本の高さを算出し、さらに各地域の火災予防条例などを参考にして決定してください。次の項「トップの位置」も参照してください。

$$\text{基本の高さ} H(\text{m}) \geq 2 + L/2 + (0.8 \times \text{曲がりの数})$$

- 曲がりの数は2箇所以内にしてください。

■トップの位置

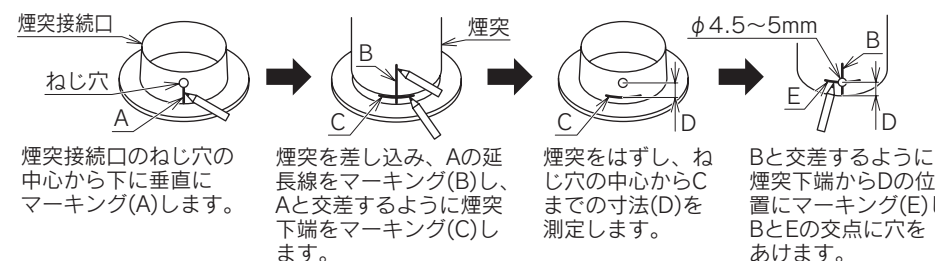
- 煙突の先端から1m以内に建物の軒がある場合はその軒から60cm以上高くしてください。
- 煙突の先端から1m以内に開口部(窓)がないようにしてください。
- H型トップは風圧帯の中に入らないようにしてください。



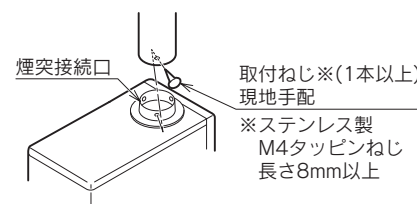
■煙突の接続

- 機器と煙突は次の要領で接続してください。

- 煙突接続口のねじ穴に合わせて、煙突にφ4.5~5mmの穴をあけます。(穴は3箇所ありますので、1箇所以上固定してください。)



- 煙突接続口に煙突を差し込んで、取付ねじ(1本以上)で固定します。



■集合煙突利用の禁止

- 煙突は絶対に集合煙突に接続しないでください。

リモコンの接続

⚠️ 警告

- リモコンコードが熱交換器・バーナーなどの燃焼部に接触しないように配線してください。
- 余ったリモコンコードは機器外でまとめ、機器内に入れないでください。また、リモコンコードは切断して使用しないでください。

- この機器はリモコンを取付けないと操作できません。また別売のリモコンが接続できます。
- 機器とリモコンの接続は小勢力回路の工事に該当し、電気工事士の資格がなくても工事できますが、電気設備に関する技術基準に従って工事を行ってください。
- リモコンコードは電源プラグを抜いた状態で接続してください。

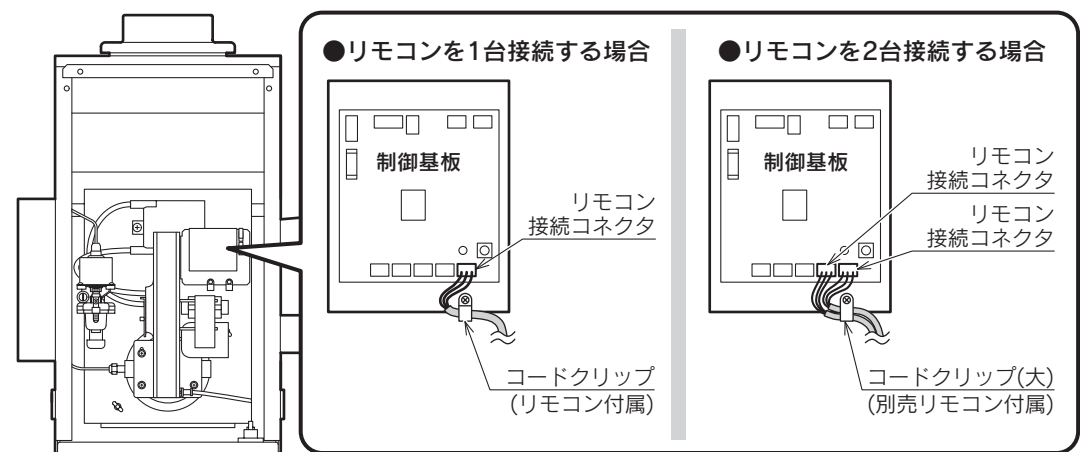
リモコンの取付け

リモコンの取付けは付属の「リモコン工事説明書」をご覧ください。

機器との接続

- 電源プラグがコンセントに差し込まれていないことを確認します。電源プラグを差したままリモコンコードを接続しないでください。
- 機器の前パネルのねじ(2本)をはずして前パネルをはずします。

- 機器側面の送油管・配線取出口を通してリモコンコードを機器内に入れます。
- 制御基板のコネクタにリモコンコードのコネクタを差し込みます。リモコンを2台取付ける場合は、もう一方のコネクタに差し込んでください。



- リモコンコードを付属のコードクリップでしっかりと固定します。リモコンを2台取付ける場合は、別売のリモコン付属のコードクリップ(大)で2本いっしょに固定します。

- 前パネルを元通りに取付けます。

リモコン(別売)の取付け

- 別売のリモコンを取付ける場合は、リモコン付属の説明書に従って取付けてください。

据付工事後の点検

- 据付工事が終わりましたら、もう一度確認してください。

機器およびその周辺

- 可燃物との距離および防火上の処置は充分ですか。
- 点検・修理など保守・管理に必要なスペースがありますか。
- 設置条件を満たしていますか。
- 機器や配管の接続部に水漏れはありませんか。
- ふろ配管の水漏れは浴そうに水を入れて確認してください。
- 機器・油タンク・送油経路に油漏れはありませんか。

電気配線工事

- 機器およびリモコンの配線は指定された工事で行われていますか。
- D種接地工事はされていますか。

試 運 転

- 試運転は必ずお客様と一緒に行ってください。

1 試運転

- 取扱説明書の「据付け」の「試運転」に従って行ってください。
- 正常運転することを確認してください。

- バーナーの点火や消火は確実に行われていますか。(リモコンの運転ランプで確認してください。)
- 試運転時は内部の防錆油が燃える(気化する)ため、煙や臭いが出る場合がありますが、しばらく燃焼すると防錆油が燃える煙や臭いは出なくなります。

2 お客様がすぐに使用されない場合

- 試運転後、機器や配管内に残った水をお客様が使用されるまで放置すると、凍結して機器が破損したり、熱交換器内の水が変質したりすることがあります。必ず水を抜いてください。(取扱説明書参照)

引 き 渡 し

お客様への説明

- 取扱説明書に従い取扱方法をお客様に説明してください。
- 保証書に必ず必要事項をご記入の上、お客様にお渡しく下さい。(保証書は取扱説明書の巻末です。)
- また、取扱説明書に従い「アフターサービス」について説明してください。

所有者登録

- この機器は消費生活用製品安全法の『特定保守製品』に指定されています。お客様に「法定説明事項」をご説明の上、所有者登録(所有者票(はがき)の返送)について説明してください。

廃棄するときの注意

- 機器を廃棄するときは、必ず灯油を抜いてください。リサイクルの支障となります。

住宅設備機器総合メーカー
株式会社 長府製作所



●本社 〒752-8555 山口県下関市長府扇町2-1 ☎(083)248-1111
FAX (083)248-1906